

平成 19 年 6 月 28 日

## 点検停止中の 3 号機における警報の発生に関する調査結果について

点検停止\*<sup>1</sup>中の 3 号機において、平成 19 年 6 月 15 日午前 7 時 10 分、「起動領域中性子束モニタ\*<sup>2</sup>チャンネル(C)ペリオド短短/機器動作不良」の警報が発生し、それにともない「原子炉自動スクラム(A系)\*<sup>3</sup>」の警報が発生しましたが、午前 7 時 12 分、解除しました。

その後、当該モニタのチャンネル(F)および(A)の警報がそれぞれ 1 回および 6 回発生し、それにともない原子炉自動スクラム(B系)および(A系)の警報がその都度発生しましたが、いずれも解除しました。

本事象については、いずれの場合も警報の発生したチャンネルの指示値が一時的に変動したものであり、警報がまもなく解除されていること、また、当該モニタに関する作業は実施していないことから誤動作と判断しております。

なお、3 号機は点検停止中であることから、制御棒が全挿入状態となっており、制御棒の動作はなく、安全上の問題はありません。

また、これによる外部への放射能の影響はありません。

([平成 19 年 6 月 18 日お知らせ済み](#))

調査の結果、警報が発生した 3 つのチャンネルの原子炉格納容器貫通部の信号ケーブルの接続部において、接触不良による導通抵抗の変動が確認されました。

警報が発生した原因は、いずれのチャンネルについても、当該接続部において発生した接触不良による導通抵抗の変動により電気信号が変化し、モニタ指示値が一時的に変動したことによるものと推定いたしました。

今回の対応として、警報が発生したチャンネルについては、当該貫通部に設置されている予備の信号ケーブルと入れ替えを行い、健全であることを確認するとともに、警報が発生しなかった他の 5 つのチャンネルについても点検を行い、健全であることを確認いたしました。

以 上

\* 1 点検停止

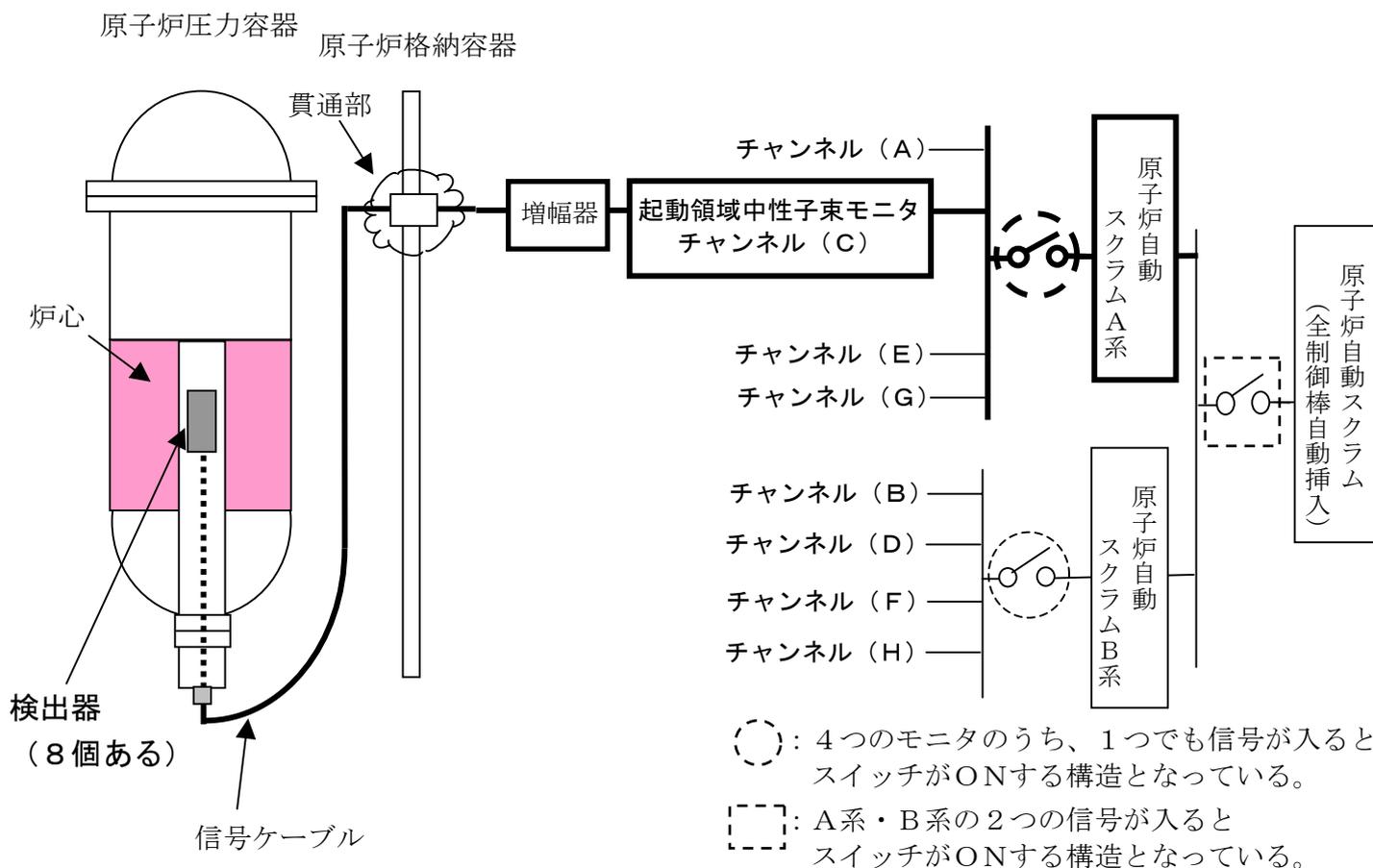
平成 19 年 6 月 14 日、定格熱出力一定運転中にタービングランドシール蒸化器出口配管のドレン配管取付部付近で蒸気漏れが認められたことから、点検および原因調査のため原子炉を手動停止することとした。(平成 19 年 6 月 14 日お知らせ済み)  
制御棒全挿入は、6 月 15 日午前 3 時 26 分。

\* 2 起動領域中性子束モニタ

原子炉の停止中および低出力運転時に中性子の量を測定する装置(8チャンネルで構成されている)。

\* 3 原子炉自動スクラム(A系)

原子炉を緊急停止するための信号が片系統だけ発生した状態であり、制御棒は動作しない。スクラム信号はA・B両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させる。



注) 代表例として起動領域中性子束モニタのチャンネル (C) を記載している。

起動領域中性子束モニタ系 系統概略図

